

平成 27 年 11 月 30 日

保護者の皆様へ



吹田市立吹田南小学校
校長 津田 一司

平成 27 年度 全国学力・学習状況の分析について

本年度も、6年生を対象として「平成27年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて発表しております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も算数・国語・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめこまやかな指導ができるよう、取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善をも図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考としていただきますようお願いいたします。

1、教科に関する調査結果の分析

《調査の内容》

調査問題は、主として「知識」に関するA問題と、「活用」に関するB問題に分かれています。

国語A・算数A 主として「知識」	・その学年で必ず身につけておかねばならない内容。その後の学年の学習を進めるに当たって、必要とする内容。 ・実生活において不可欠で、活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。
国語B・算数B 主として「活用」	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用することに関わる内容。 ・課題解決のために構想を立て実践し、評価・改善することに関わる内容など。
理科	・知識・活用を問われる問題が1枚の中に出题されています。

・・・ 今回の学力テストの結果に関わって・・・

国語《概要》

◎国語A（『知識』に関する問題）全国平均値をやや下回りました。

◎国語B（『知識の活用』に関する問題）全国平均値を下回りました。



国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

学校の委員会の案の聞き方の説明を選ぶ問題で、正答率が低く、話を聞く時に自分の考えを持って聞くことが問われています。

書くこと

「書く」問題では、具体例を挙げ説明した文章を選ぶ問題の正答率が、全国値とほぼ同じ87%との高くなっていました。また、新聞の3つの割り付けに書かれた内容を選ぶ問題では、正答率がやや低く、日常生活の中の文章の書きぶりや趣旨の理解に課題が見られました。

実際に文章にまとめる問題では、正答率が低く、様々な文章を書いていくことを授業の中で指導・習熟していく必要性があります。

読むこと

A問題B問題ともに、正答率にはばらつきが見られました。問題文を読み、「人物関係図」を仕上げたり、文章の「要旨」をまとめたりする問題においては、日頃の授業で繰り返し学習している成果があり、70%を超える正答率でした。また、問題文から難語句の意味を捉えて書き抜く問題においても70パーセントから80%と全国平均に近い正答率でした。

今回のテストでは、A・B両問題で、生活に題材をおいた問題（案内文・コラム等）が多く、活用力が問わ

れましたが、こういった問題の正答率が概ね低く、活用力をつける授業を行っていく必要があると考えます。

今回、無答率の高かった問題に「引用」している文を選ぶ問題がありました。「引用」を始め、教科書の中で使われている様々な表現の工夫を授業で、しっかり取り上げていきます。

音読する時の工夫を問う問題では、無答率が15%に上りました。音読指導に表現の工夫を入れていきます。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

漢字は、「読み」・「書き」とともに3問ずつの出題で、両者ともよくできていました。「書く」問題は98%を超える正答率で、漢字の力が定着していることがわかりました。一方、言語の特質を問う問題では、「主語・述語」、「文の構成」の正答率が低く、各学年で学習した言語事項の習熟を図っていくことが課題です。

国語科における成果と今後の改善点について ■成果 ▼課題 ●改善点

■漢字 …指導法が一定確立しており、成果として現れていました。

説明文…構成や・要旨をとらえることが、身につけていました。

物語文…的確な読み取りができています。

▼記述力…様々な場面で目的に応じた文章の書き方をすることが必要です。

活用力…生活場面でみられる「ポスター」「リーフレット」「新聞」などの表し方・読解力を高めていく必要があります。

●指導の時間配分を見直します。「活用力」を意識した授業を行っていきます。

授業改善に向けて、学校として研修を行い、授業研究を推進します。



算数《概要》

◎算数A（『知識』に関する問題） 全国平均値をやや上回りました。

◎算数B（『知識の活用』に関する問題） 全国平均値を上回りました。

算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

2～5年生までの計算問題が出題され、概算も含め、70%から99%の正答率でした。その中で、小数と異分母分数の計算が70%と低い正答率で、小数の計算の仕組みを正しく理解して使うこと、約分・通分に慣れ正しく計算処理することが等が課題です。

四捨五入（概算）の活用問題の正答率が低く、記述問題の無回答率が高くなっていました。概算で、「四捨五入」「切り上げ」「切り捨て」を問題（場面）によって使い分けることが課題です。

量と測定

210°の角度を測る基礎的な問題が半数の正答率で課題と言えます。180°を超える角度は、分度器の使い方が少し複雑になります。【角の大きさの見当をたてる→角度の大きさに応じた測り方と計算の仕方→答えを振り返る】という一連の指導過程を丁寧に行う必要があります。

今回、図形の問題で、「合同」の性質を使い、面積が同じである理由を説明する問題がありました。その中で正答率が低く、記述問題の無回答率の高さが気になりました。

図形

円周と円の中心に頂点を置く二等辺三角形を扱った問題では、筋道立てて考えることに弱さが見られ、低い正答率でした。展開図と見取り図から情報を読み取ることはできました。

平行四辺形の性質は理解できているのに、描き方に結びつけて考えることに弱さがありました。

数量関係

様々なグラフの読みとりや、図と式の相関関係については、理解もできていて、高い正答率でした。生活場面で割合の考え方を使う3問の出題がありましたが、全国平均よりは高いものの、正答率が低く、課題が見られました。特に、「もとにする量」を求める問いに対して約3割の児童しか答えられず、理解の難しい

問題として力を入れ指導していきます。

算数科における成果と今後の改善点について ■成果 ▼課題 ●改善点

■取り組みの成果が出ており、どの領域においても、基礎はできています。

計算領域は、よくできます。

難しい単元である『割合』は、全国平均より高い正答率でした。

▼国語同様、記述力に課題が見られました。

『角度』『概算』『割合』の中で、複雑さが増すと正答率が下がりました。

各単元の中でポイントを絞り、応用力を伸ばす必要があります。

●既習事項を生かして、自ら問題を解いていく問題解決学習には、数年前から取り組んでいます。今後も、活用力をつけること・コミュニケーション力を伸ばすことを目標として授業改善を行います。

理科《概要》

◎全国平均値とほぼ同じでした。

●理科《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

A物質とエネルギー

「ふりこ」について、予想したことを確かめる実験の条件を選ぶ問題では79%の正答率でしたが、それを活用する問題で、正答率が60%に下がりました。実験の結果から、変化とその要因を関係づけて考える学習を重視し、児童が規則性を見いだすようにすることが大切です。

電磁石と磁石の性質を利用した振り子時計問題の一部では、半数の正答率でした。学習した磁石の性質を実生活と結びつけて考えることに課題が見られました。

実験では、「水蒸気」「熱の伝導」「溶解」から出題されました。【実験結果からわかることをまとめる】→【生かす】→【実験結果を見直し実験を計画する】学習の過程を重視する必要があります。

B生命と地球

「メダカ」のオス・メスを見分ける問題は、全国平均を大きく超えた89%の正答率で、意欲的に観察ができていたことがわかりました。「メダカ」「人」「インゲンマメ」の養分の取り入れ方を問う問題では、結果についてまとめられても、考察する力が弱いことがわかりました。顕微鏡操作の問題の正答率は全国値より高いものの、名称を覚えられていませんでした。

「星」や「雲の動き」についての問題では、全体に低い正答率でした。月が動きは変わっても、形は変わらないという基本的事項が半数以下の正答率で、指導に工夫が必要です。

「打ち水」が題材の問題では、グラフをもとに考えることができましたが、「蒸発」という言葉が半数以下の正答率で、知識の弱さが表れていました。

理科における成果と今後の改善点について ■成果 ▼課題 ●改善点

■どの領域も学習したことの知識・理解は一定の成果が正答率として見えました。

『実験・観察』については、興味を持って取り組んでいることがわかりました。

▼『実験・観察』に組み込み、結果をまとめた後、自分の言葉で筋道立てて考える力をつけていくことが必要です。

実験器具の名称が知識として身につけていないことも特徴的でした。

●理科で学習することは、生活の中にあふれています。今回のテストにも、生活場面に生かした問題が出題されましたが、学習したこととの結びつきが弱かったようです。授業の中で、生活場面を取り上げたり、筋道立てて考えることを意識的に授業の中に取り入れていきます。

2、生活習慣や学習環境等に関する調査結果

《調査の内容》

学習意欲や方法、学習環境、生活の諸問題に関する質問で、子どもたちの実態をとらえようとしています。

《基本的な生活習慣・家庭学習・家庭内環境》

基本的な生活習慣のリズムが確立できています。「自主学習」取り組みの成果が出て、家庭学習の習慣がついていることがわかりました。読書を全くしない子が30%で、図書館に行く子も全国平均より低くなっています。

「携帯電話を持っていない」子が減り、携帯メールやゲーム機で遊ぶ時間が増えましたが、家族間のコミュニケーションは十分とれているようでした。新聞を読んでいる子は半数近くで、ニュース番組やインターネットのニュースを見る子が8割と高くなっていました。

《自分自身に関すること》

自尊心がやや低く、「失敗を恐れてチャレンジしない」と答えた児童が3割に上りました。しかし、「将来役立つ人間になりたい」と答えた児童が8割に達し、「決まりを守る」と答えた子が8割、「いじめはいけない」と答えた子が9割強の高い回答率で、高い規範意識が見られました。

《授業に関すること》

学習のめあてやまとめをノートに書いている児童は9割で、日常の取り組みの成果が現れています。発表が苦手と感じている児童は、全国値より多くなっていました。

教科別に見ると、国語は、「授業がわかる」「自分の考えを書く」「内容を理解しながら読む」の肯定率が低く、算数では「授業の内容がよくわかる」の肯定率が高くなっていました。理科については、「自然の中で遊んだり自然観察をしたりしたことがある」の肯定率は全国平均と同じでしたが、「将来役に立つ」「大切だ」の肯定率は全国平均より低くなっていました。

《課題改善のための取り組み》

- ・「朝読書」「読書ボランティア」「読み聞かせ」を中心に読書の取り組みを一層進めていきます。また、国語の授業の中で、「ビブリオバトル」「並行読書」などの活用力を伸ばす学習につなげます。
- ・子どもたちが携帯電話・ゲーム機・ネットに対する認識を正しく持ち、有効に使えるように、携帯マナーの授業を実施します。同時に、教職員の認識も深めます。
- ・子どもたちの自尊心が深まるよう、学校での日常的な場面や行事を通し、ひとりひとりの成長を認め、伸ばしていきます。



3、今後の取り組み

《学校で》

本校では、「算数科」において、「思考力・表現力を高める」というテーマで指導力向上に努めています。今回、A、B両問題において、全国平均を上回る結果を得られました。国語科においても同様に、研究授業を通して改善点を探っていきます。昨年より、本格的に進めてきた「自習学習」は、学習への主体的な姿勢を育てています。今後も、子どもたちが、自分の課題にあった学習を進めていけるよう、支援と指導を行っていきます。

《ご家庭で》

本校では、学期末の学年だよりを通して、「あゆみ」についての「評価基準」をお示ししております。その他、懇談会等でお話しさせていただいていることも参考にし、お子さんの「課題」や「つまずき」を正しく捉えていただければと考えます。

学校の取り組みとしてもあげましたが、携帯やネットについて、保護者の方もそれぞれのご家庭での現状を把握し、ルールを見直していただきたいと思います。

本校では、ひとりひとりの子どもを理解し、「いじめ」の早期発見に努めるため、学期に一度アンケートをとり、実態把握に努めています。子どもたちの心のサインを見逃すことなく、安心して登校できる学校であるためにも、保護者の皆様の協力をお願いします。

最後になりましたが、いつも、本校の教育活動にご理解をいただきありがとうございます。今後も、どうぞご協力をお願いいたします。

